

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	キッズハウスなごみ家			
○保護者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	23名	(回答者数)	10名
○従業者評価実施期間	令和6年 4月 1日		～	令和7年 3月 31日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	6	(回答者数)	5
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 4月 23日			

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	専門的インストラクターさんをお招きして、運動療法を取り組むことで体の使い方や体幹強化等をご利用児の集中力向上等につとめ、同時に職員の指導方法の質の向上につなげています。	ご利用児に合わせて視覚的、聴覚的、感覚的な情報提供を様々な形で取り組んでおり、絵カード等のコミュニケーションツールを使いながらご利用児の理解しやすい様に配慮している。	療育の質を高める為に外部研修を増やし、それを他の職員に伝える事でより質の高い療育の確保をしております。
2	ご利用児が運動療法等で広々と身体を動かせる環境を整える為にプレイルームを大きく設定しており、個別に対応出来る様にカーテン等を用いてスペースの確保をしている。	ご利用児が施設を楽しみにしてもらえる様に保護者ニーズのみならず、ご利用児のニーズを集めながら少しずつでも支援に取り入れてご利用児の意識向上につなげております。	職員同士の情報交換の場を設け、全員で療育の統一性を高めながらたくさんの情報を集め、より質の高い療育につなげてまいります。
3	就労されている保護者様も多数おられる為、保護者様のニーズに沿った時間で対応しており、長期休み等も朝からの対応を可能な限り取り組んでいる。	ご利用児の中で切り替えが苦手な方も多数おられるため、プログラムの開始5分前に声掛けや視覚的情報を与える為に、時計を使うなどして余裕をもった切り替えの時間を確保している。	運動療育やコミュニケーション時に使うツール等を整える事でより質の高い成果を求めていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	プレイルームを広く取っている分、個別スペースがカーテン等のみで聴覚的に苦手なご利用児やパニック時に落ち着く為の防音環境を整えるのが難しい。	プレイルームが広い為、少人数の場合だと、室内と走り回ったり、ごっこ遊びから激しくなってしまう事も多々あった。	室内のご利用人数に応じてある程度のレイアウトを決めておき、走り回ったり、激しい運動が出来にくい環境を整え、そ 中でどのように過ごすかを指導員と一緒に考えていく。
2	トイレが男女兼用が1つの為、体調不良等により、たくさん使われる場合がご利用児の負担になる可能性もある。	宿題やワーキング、食事をとる際に児童によっては机やいすのサイズが大きく姿勢が悪くなってしまう。	机や椅子のサイズについては調整が難しい為、小さいご利用児には小さい椅子や大人サイズの椅子を使うご利用児には足の踏ん張りをしてもらう為に、踏み台等を用意して環境を整えていく。
3	活動プログラム等の情報発信が弱かった為、保護者様に情報が届いてない場合もあったのでより発信ツールを活用して活動内容や取り組みについて発信してまいります。	コミュニケーションツールを用いているが児童全体に意味が浸透していないか意味を理解出来ていない場合もある。	ご利用児にそれぞれの理解しやすいコミュニケーションツールを複数用意し、ご利用児の一番理解しやすいツールを用いてコミュニケーション等をとれる様に用意し、指導員同士でご利用児に合わせたツールを共有する。